

● 電子契約の利用開始について

愛媛県では、県民や事業者の皆さまがインターネットを利用して県と効率よく手軽に契約できる、電子契約を開始しました。電子契約は、契約事務の削減、印紙代や送料が不要になるなど大きなメリットがあります。対象となる県との契約には、ぜひご利用ください。

【対 象】 事業者



■ 問い合わせ先 県スマート行政推進課
☎ 089-912-2286

● 若年層の性暴力被害予防月間について

進学時期である4月は若年層の性暴力被害予防月間です。被害にあっているかと思ったら、ためらわず相談窓口にご連絡ください。相談無料・秘密厳守ですので、安心してご相談ください。



■ 問い合わせ先 県少子化対策・男女参画室
☎ 089-912-2332

せとうち交流館だより

◀メディア室・展示室のご案内▶

● てまり(てまりグループ)

令和7年4月新着図書

※入荷次第貸出となりますので、ご了承ください。

☆一般書☆	タイトル	作 者	タイトル	作 者
天使は見えないから、描かない	島本 理生	氾濫の家	佐野 広実	
一次元の挿し木	松下 龍之介	4月1日のマイホーム	真梨 幸子	
死んだ山田と教室	金子 玲介	目には目を	新川 帆立	
猫の刻参り 三島屋変調百物語拾之続	宮部 みゆき	砂に埋もれる犬	桐野 夏生	
ふたたび歩き出すとき 東京の台所	大平 一枝	すごすぎる天気図鑑 防災の超図鑑	荒木 健太郎	
願わくば海の底で	額賀 滯	嵐をこえて会いに行く	彩瀬 まる	
やるき1%やせごはん 食べても勝手にやせる 低カロリー満腹レシピ500	まるみキッチン	さかのぼり喫茶 おおどけい	内山 純	
C線上のアリア	湊 かなえ	友が、消えた	金城 一紀	
☆児童書☆	タイトル	作 者	タイトル	作 者
小学館の図鑑NEOアート はじめての国宝	青柳 正規/監修	あなたのからだをだいにじにするほん	横山 洋子/監修	
くらげのパポちゃん	かこ さとし/文	モモ	ミヒヤエル・エンデ/文	

- 愛媛県立図書館の図書を借りることができます。受付までお問合せください。
- 図書のリクエストを受け付けています。

岩城積善山頂上付近の桜の植替えについて

例年、岩城積善山の桜は多くの花見客を魅了していますが、頂上付近の桜は老木化が進み、昨年は極端に花を咲かせなかったため、樹木医に診断していただきました。その結果、近年の夏の高温が影響していること、多くの桜が寿命を迎えていることなどから再生は不可能との診断でした。

そこで戦後から桜を植樹されてきた先人たちの思いを絶やさないよう、積善山東側駐車場～展望台～西側駐車場の遊歩道沿いの桜、約160本を毎年40本ずつの植替えを予定しております。

今年は、積善山東側駐車場から展望台にかけての遊歩道沿いの桜40本の植替えを、2月18日に岩城老友会と寿会の協力を得て実施し、当日は雪が降る寒い中ではありましたが、無事終わることができました。今後も計画的に植替えをまいりますので、桜の保全活動に対しましてご理解ご協力をお願いします。



■ 問い合わせ 岩城 農林水産課 ☎75-2500

●ご利用案内 開館時間 8:30～17:15

種類	貸 出 限 度	貸出期間
図書	1人5冊まで(うち新着本 2冊)	3週間
DVD	1人3本まで(うち新着DVD 1本)	1週間 新着 DVD 3日間

●問い合わせ せとうち交流館
上島町弓削下弓削 1037-2
☎ 77-2252 ☎ 77-2292

祝 岩城俳句部 山元征子さん
短歌：課題詠部門入賞

岩城俳句部所属の山元征子さんが、今治市中央公民館文化祭短歌大会において、「今治市中央公民館長賞」を受賞されました。これは長年にわたり、短歌、俳句を深めてこられた努力の成果が評価されたものです。

○令和7年第43回今治市中央公民館文化祭短歌大会
・今治市中央公民館長賞(優秀作)



入選歌 しあわせと思へる今日の一時よ
庭の草木に蝶来て遊ぶ

このたびの受賞を心よりお慶び申し上げます。

薄氷を避けて道行くバス停に
朝もやに産声上げて梅一輪
薄氷の下ゆるやかに池の鯉
夕月に浮きたつ如し梅真白
恙なく傘寿迎へし梅ふむ
美濃部妃苗

梅の香や五感満ちたり露天風呂
老幹に苔むす梅の花ひらく
薄氷柄杓を拒む朝詣で
田名後篁雨



かみじま郷土話 30

岩城島と大名行列



▲ 舸子たちが待機していた懸浦

岩城島は、江戸時代には生名島とともに松山藩に所属していました。松山藩の参勤交代の際、松山城を出発した藩主一行は、三津浜から船で斎灘を航行し、大三島と伯方島の間の鼻栗瀬戸を抜けて岩城島本陣で停泊。その後、備後灘を通過して播磨室津で一泊し、陸路で大阪を経由して江戸へ向かったとされています。岩城島での藩主一行の停泊には、岩城島本陣の

三浦家が対応にあたりましたが、その他にも藩主参勤の際に役割を持った人々がいました。

藩主の一行が、船で岩城島周辺を航行する際には、海辺で待機していた舸子(船の漕ぎ手)が一行の船を曳いて、その航行を補佐しました。舸子は、関前の三島(岡村)漕船衆30人と、岩城漕船衆50人の、合わせて80人で対応しました。岩城では、この御用を務めた人々は百姓がほとんどでしたが、一人につき扶持米(お米による給与)が与えられたことから、やがては専門化されました。この舸子が集まって待機していた岩城島東岸の浜辺は、水主浦(かこのうら)という地名で残っており、現

在は訛って懸浦(掛ノ浦 かけのうら)と呼ばれています。

文化13年(1816年)、岩城島の港工事にに関する記録によると「中瀬戸の通船の船々は芸州御手洗より備後鞆津までの間にては当所を汐繫場所と相心得居候」とあり、岩城島は農村であると同時に海駅としての役割が重要視されていたことがわかります。



生涯学習課
曾根 大地